

違ない、金史語解には撒卯或は薩敏(改譯して薩滿)といふ名を *saman* にあて、滿洲語の巫也と解いてあるなどによれば、少くとも金代から此の名で呼んだものと思はれる、今日歐羅巴の諸國語の中に入つて居る *shaman* といふ言葉は、此のツングース語から出たものであることは、既に定説となつて居る。

蒙古語について考へて見ると、*Rubruck* の紀行には「すべて巫は *Cham* (この *Ch* は *k* の音に相當する) と呼ばれる」と記されて<sup>25)</sup>ある、これに據ると當時蒙古ではキルギス語やウイグル語など同一の名稱を持つてゐたものゝ如くに思はれる、それで *Rockhill* 氏の如きは、蒙古トルコ及びツングース語では、巫はみな同一名稱で呼ばれたものと考へて、「*kam* なる語は常にトルコ及びタール族によりて彼等の *doctors, quacks, magician* 即ちアメリカインディアンの *medicine-man* に當るものを表はす爲に用ゐられた、……今も *Belire Tatars* では *kamen* といひ、*Kachinzi* では *kamnoe* といひ、*Kirghiz* では *kantscha* といひ、*Manchus* では *shamas* といふ」と説いてゐる。<sup>26)</sup>

*gam* と *saman, sama, saman* との間には音韻の類似があり、また蒙古にも *cham* (＝*kam*) なる語が存してゐたとすれば此等の三國語は巫に對して共通の語を有つてゐたものであるとの考は、一應尤ものことと思はれる、併しながらかゝる説を立てるについては今一段の研究を必要とする、何となれば *Rubruck* は蒙古で巫を *cham* (＝*kam*) といふたとは記して居るが、此の語は今日蒙古語には存しない言葉であり、また此の人以外にはかゝる名稱を記して居る人はないのである、*Pian de Carpine* も *kam* なる言葉を記しては居るが、<sup>27)</sup>それは、トルコ族に屬する *Coman* 人の間で神を呼ぶ名(實は巫を呼ぶ名であらうが)として傳へたものである。此等の紀行以外の書物につ